

授精課通信



今月のマネージメント情報では、「授精師は見てるよシリーズ」をお休みして、いつも私が書いている様なマネージメント情報とは少し違ったものを書きたいと思います。

～分娩難易度に注意！～

今まさに、2020年8月の海外種雄牛の成績が公表になりますが、2020年8月の成績公表から分娩形質のベースが変更になりますので、お知らせさせていただきます。今までの感覚で見ると、あまりの数字の変化に驚くと思いますので、ご参考になればと思います。

◎分娩難易度と死産率の表現型ベースの変化

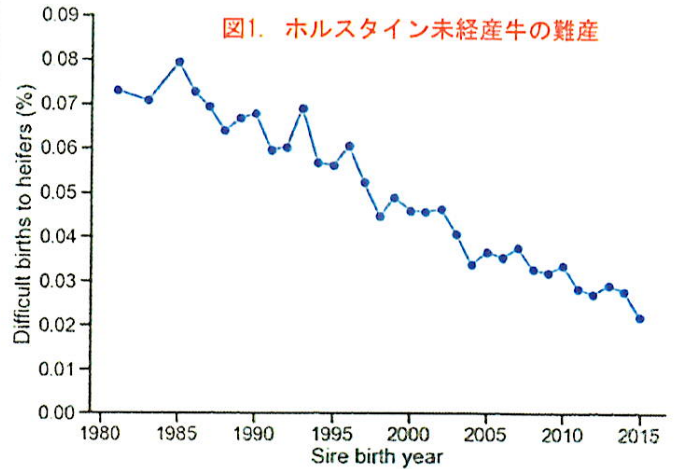
形質	現在のベース (%)	新しいベース (%)	変化
SCE	7.9	2.2	-5.7
DCE	8.5	2.7	-5.8
SSB	8.0	5.7	-2.3
DSB	8.0	6.6	-1.4

※SCE＝種雄牛分娩難易度 DCE＝娘牛分娩難易度
SSB＝種雄牛死産率 DSB＝娘牛死産率

分娩難易度の PTA 数値は、4月のベースチェンジ時には、表現型ではなく遺伝ベースを更新したため、難産の発生率が低下している(図1)にもかかわらず数値は引き続き増加しました。8月の成績では、観察された発生率と一致するように表現型ベースを調整されたようです。SCE を見てみると100頭中7.9頭が難産していたものが100頭中2.2頭に減るというような意味なので、すごいインパクトだと思います。

実際に当社の診療でも、難産の往診は昔よりも減って来ている傾向にあると言っていました。また、今は♀精液の利用も増えたのもあり、ホルの難産より子出しの大きさや増体系といわれるものもとめられているF1 や和牛の難産の方が多という話も耳にします。ホルの難産が減ったのには、♀種の普及だけではなく、遺伝の改良と農家さんが種付け時に子だしを気にして種雄牛を選んでいることも大きいのではないかと思います。

図1. ホルスタイン未經産牛の難産



参考: CDCB June 2020

ホル種雄牛の SCE の範囲が4月では、4%～12%の間になっていましたが、8月には1%～4%の範囲になります。これは、分娩難易度という種雄牛を選択する時の妨げになっていた壁が低くなったように思えますが、私としては気を付けなければいけないのではないかと思います。確かに難産は減っているのかもしれませんが、4～12%もの範囲だったものが1～4%に凝縮されるということは、その凝縮された範囲内の評価で自分の農場にあった分娩に問題の起きない種雄牛の基準を見つけ出さなければならぬのではないかと思います。

海外の方でも、「分娩形質が昔より改善されたがこれは自己満足できるという意味ではない。分娩形質の遺伝率は3～8%と低く、これは種雄牛の選抜と適切なスタッフのトレーニングと分娩房での気配りが難産と死産率を低く保つために重要であることを意味します。」と言っています。

引き続き皆さんの農場でも、分娩時に母子ともに元気でいられるように、気を付けたいものです。

この文面だけでは、うまく伝わらないこともあると思いますので、興味のある方はぜひ農場に出入りしている授精師に聞いてみてください。

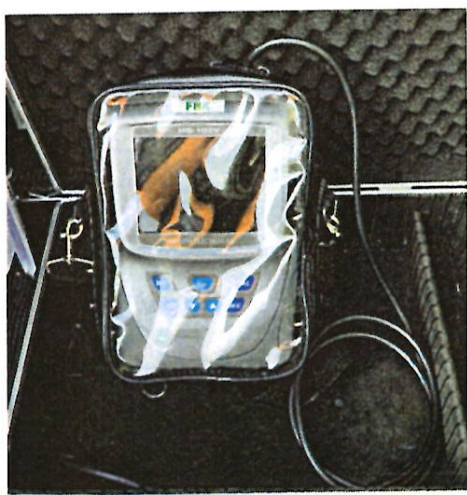
少しスペースがありましたので、興味はないと思いますが、私事を少しだけ書こうかと思えます。中学生頃から突如発症した牧草アレルギー…実家が酪農家の為、草時期は地獄でくしゃみ・鼻水・目のかゆみに襲われます。大人になった今も変わらず、牧草収穫時期はマスクに眼鏡でくしゃみをしながら授精をしています。年々、免疫力が低下していつているのか、今年は特にひどい期間も長いので参りました。何かいいアドバイスをお持ちの方がいましたら、教えて頂けると助かります。

Nakanishi

授精課通信

こんにちは、授精課の相内です。最近蒸し暑い日が多く、直検するだけで汗が止まりません。自分とはにかく暑いのが苦手なので最近の天気はととも辛いです。

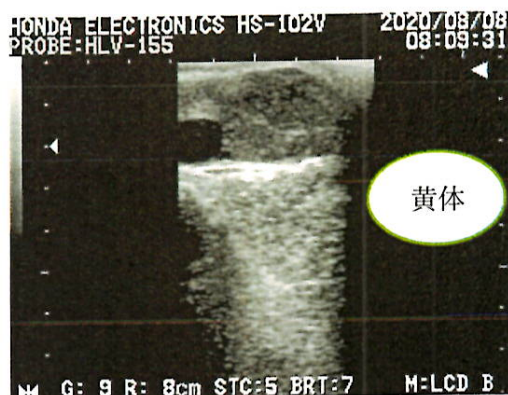
今回は、7月から使い始めたエコーが今月で1ヵ月になるので、そのことについて書こうと思います。



エコーを使い始めて

まず、エコーを使い始めたときは率直にプローブが邪魔だと思いました。それまでは、触診でやっていたのが手にプローブがあるだけで違和感でした。

触診でやっていた時は、右手で尻尾を掴んで、体重移動で左手を直腸に入れていたのが、エコーを持つと、右手で尻尾を掴むことができなくなり、直腸に手を入れること自体が難しくなりました。しかも左手はプローブを持っているので、直腸にうまく手が入らず、肛門で手が止まるので牛が嫌がって、左右に振られるのと尻尾で頭をたたかれる回数が増えてしまいました。そのこともあって、直検に時間がかかっていると感じました。最近、だいぶプローブにも慣れてきてしっかり、卵巣や子宮を映せるようになってきたと思います。



上の2枚の画像は最近撮り始めた黄体と卵胞の画像です。自分が直検した牛の卵巣の画像は構造物がない限りは必ず撮るようにしています。画像を撮る理由は、自分の判断に間違いがないか、後で確認できるように画像で残しています。

今後の取り組み

今後やってみようと思っていることは、牛の発情周期である21日間の卵巣の様子を画像で残して、観察してみたいと思っています。

エコーもまだまだ使いこなせていないので、これからもっと練習して誤診をしないように頑張りたいと思います！

相内 稜蘭